# 平成 14年 3月期 決算短信(連結)

平成 14年 5月 16日

上 場 会 社 名 ミネベア株式会社

上場取引所 東 大 名

コード番号 6479

本社所在都道府県

(URL <a href="http://www.minebea.co.jp">http://www.minebea.co.jp</a>)

長野県

問合せ先 責任者役職名 取締役経理部長

> 大木 貞彦 氏 名

TEL (03) 5434 - 8611

決算取締役会開催日 平成 14年 5月 16日

米国会計基準採用の有無

1.14年 3月期の連結業績(平成 13年 4月 1日 ~ 平成 14年 3月 31日)

(1)連結経営成績

(金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。)

	売 上 高	営 業 利 益	経常利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %
14年 3月期	279,344 △ 2.7	21,972 △ 33.4	15,995 🛆 35.3
13年 3月期	287,045 0.8	32,977 6.1	24,726 14.8

	当期純利益	1 株 当 たり 当期純利益	潜在株式調整 後1株当たり当 期純利益	株 主 資 本 当期純利益率	総資本経常利益率	売 上 高 経常利益率
	百万円 %	円 銭	円 銭	%	%	%
14年 3月期	5,298 △ 64.3	13.27	12.60	5.0	4.6	5.7
13年 3月期	14,826 -	37.14	34.10	11.6	6.6	8.6

(注)①持分法投資損益

14年 3月期

△21 百万円

13年 3月期

4 百万円

②期中平均株式数(連結) 14年 3月期 399,165,043 株 13年 3月期 399,163,019 株

③会計処理の方法の変更

④売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

## (2)連結財政状態

	総 資 産	株 主 資 本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
14年 3月期	350,037	112,731	32.2	282.42
13年 3月期	346,965	100,573	29.0	251.96

(注)期末発行済株式数(連結) 14年 3月期 399,159,121 株 13年 3月期 399,167,104 株

## (3)連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
14年 3月期	34,017	△ 24,346	△ 8,317	13,952
13年 3月期	38,332	△ 33,099	△ 17,138	11,930

## (4)連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 48 社 持分法適用非連結子会社数 0 社 持分法適用関連会社数 2 社

# (5)連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結(新規)1 社 (除外)8 社 持分法(新規)0 社 (除外) 1 社

## 2.15年 3月期の連結業績予想(平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

	売 上 高	経常 利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	142,000	7,300	3,600
通期	288,000	18,500	10,000

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期)

25円 05銭

<sup>※</sup> 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在におけ る仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提条件その他 の関連する事項については、添付資料の7ページを参照してください。

# 添付資料

# 1.企業集団の状況

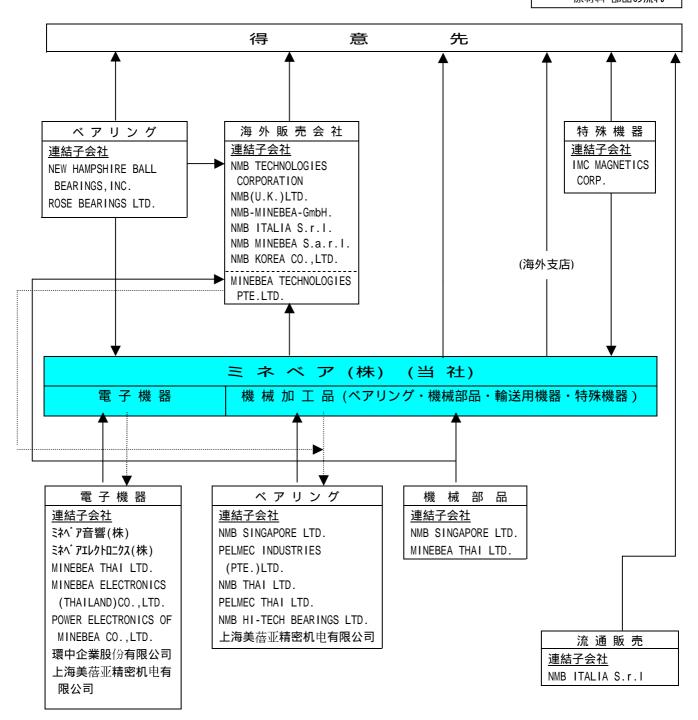
当社を中心とするミネベアグループは、当社及び関係会社50社(子会社48社、関連会社2社)で構成され、ベアリング、機械部品、輸送用機器、特殊機器及び電子機器の製造・販売等を行っております。

製品の製造は、当社及び国内子会社、米国、欧州、アジアの各国に所在する子会社が各製造品目ごとの生産を担当しております。製品の販売は、国内においては当社より直接販売を行っております。海外においては米国、欧州、アジア各地に所在する子会社及び当社の支店を通じて行っております。一般流通商品の販売は、当社の子会社である NMB ITALIA S.r.I を通じて行っております。

各事業の種類別セグメントとの関連及び主要な生産会社及び販売会社は次のとおりであります。

事業の種類別 セグメント	事業	主要な生産会社	主要な販売会社
機械加工品	ベアリング	当社	当社
		NEW HAMPSHIRE BALL BEARINGS, INC.	NMB TECHNOLOGIES CORPORATION
		ROSE BEARINGS LTD.	NEW HAMPSHIRE BALL BEARINGS, INC.
		NMB SINGAPORE LTD.	NMB (U.K.) LTD.
		PELMEC INDUSTRIES (PTE.) LTD.	NMB-MINEBEA-GmbH
		NMB THAI LTD.	NMB ITALIA S.r.I.
		PELMEC THAI LTD.	NMB MINEBEA S.a.r.I.
		NMB HI-TECH BEARINGS LTD.	MINEBEA TECHNOLOGIES PTE. LTD.
		上海美蓓亚精密机电有限公司	NMB KOREA CO.,LTD.
	機械部品	当社	
		NMB SINGAPORE LTD.	
		MINEBEA THAI LTD.	
	輸送用機器	当社	
	特殊機器	当社	
		IMC MAGNETICS CORP.	
電子機器	電子機器	当社	
		ミネベア音響(株)	
		ミネベアエレクトロニクス(株)	
		MINEBEA THAI LTD.	
		MINEBEA ELECTRONICS (THAILAND) CO.,LTD.	
		POWER ELECTRONICS OF MINEBEA CO.,LTD.	
		環中企業股份有限公司	
		上海美蓓亚精密机电有限公司	
流通販売ほか	一般流通商品ほか		NMB ITALIA S.r.I

製品の流れ 原材料・部品の流れ



そ	の 他
持 株 会 社	海外子会社に対する投融資業
連結子会社	連結子会社
NMB(USA) INC.	MINEBEA EUROPE FINANCE B.V.
	MINEBEA INVESTMENT(PTE.) LTD.

#### 2.経 営 方 針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は次の「五つの心得」を経営の基本方針としております。

- (一)従業員が誇りを持てる会社でなければならない
- (二)お客様の信頼を得なければならない
- (三)株主の皆様のご期待に応えなければならない
- (四)地域社会に歓迎されなければならない
- (五)国際社会の発展に貢献しなければならない

この基本経営方針の下に、当社は「高付加価値製品の開発」「製品の品質の高度化」に積極的に取り組み、当社の実力を発揮出来る分野に経営資源を集中すると共に、「財務体質の強化」を中心とした企業運営の強化と社内外に対して解りやすい「透明度の高い経営」の実践を心がけております。

また、「環境保全活動」については、当社が世界各地で事業を展開する上で最重要テーマの一つとして従来から 徹底した取り組みを続けております。

#### (2) 会社の利益配分に関する基本方針

当社の配当政策の基本的な考え方は株主への利益還元、事業展開並びに企業体質の強化等を総合的に勘案しながら、安定した配当を継続することが重要であると考えております。

従って、内部留保資金は企業体質の強化と今後の新たな成長に繋げるための事業資金に充当する所存であります。

#### (3) 投資単位の引き下げに関する考え方及び方針等

投資単位につきましては、現状の投資最低単位金額 (1単元の株式 1,000 株) 840,000 円 (平成 14 年 4 月 30 日現在) の引き下げについて慎重に検討しております。

## (4) 中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

当社は先に述べた会社経営の基本方針に基づき「徹底した一貫生産体制」「大規模な量産工場」「整備された研究開発体制」を世界各地で展開し、世界最強の総合精密部品メーカーを目指して収益性を高め、企業価値を引き上げることを目標としております。

これらを実現する為の課題を要約すると、次の様になります。

ベアリング及びベアリング関連製品事業の一層の強化拡充をはかる。

スピンドルモーター(流体軸受搭載を含む)及びファンモーター等の精密小型モーターを中心とする回転機器を、更に拡充しベアリング関連製品と並ぶ柱に育てる。

全ての製品について、高付加価値製品の比率を引き上げると同時に、製品の幅を広げ、より広範囲な市場に対応出来る様にする。

### (5) 会社の経営管理組織の整備等に関する施策

) 平成 13 年 4 月 1 日付けで社長直轄の組織として、R&D(製品開発)本部を発足させました。

目的は次のとおりであります。

ミネベアグループ全体の利益に適う R&D プロジェクトを、時機を逸することなく進める。

グループ各社の開発製品の知的所有権をミネベア株式会社に帰属させ一元管理を行う。

当社は従来、各製作所・事業部または第1及び第2製造本部の管轄下の子会社が製品開発活動を担当し、その 経費は製作所、事業部又は子会社の経費として処理しておりました。

開発完了まで長期間を要するプロジェクトや、単一の事業部門では開発負担が大きすぎるプロジェクト、もしくは、複数の事業部門に関連するプロジェクトについては、R&D 本部が開発費用を負担する事にし、より積極的に開発活動を行う体制を整備いたしました。

) 平成 13 年 11 月 12 日付けで経営会議直属の組織として、業務改革委員会を設置いたしました。

目的は次のとおりであります。

ビジネス環境の激変に対応する為、製造部門、営業部門、及び事務管理部門、の連携による業務全般の見直しと、より一層の効率化に取り組み、ミネベアグループとしてさらなる発展を続ける為の体制を強化する。

## (6) 目標とする経営指標

当社は、平成 14 年 5 月に 3 ヵ年計画の見直しを行いました。平成 15 年 3 月期 ~ 平成 17 年 3 月期の連結ベースでの目標数値は、次のとおりであります。

(単位:億円)

	平成 15 年 3 月期	平成 16 年 3 月期	平成 17 年 3 月期
売上高	2,880 (103%)	3,168 (110%)	3,480 (110%)
営業利益	240 (109%)	330 (137%)	370 (112%)
経常利益	185 (116%)	280 (151%)	335 (120%)
当期純利益	100 (189%)	170 (170%)	210 (124%)
設備投資額	176 ( 83% )	282 (160%)	234 ( 83% )

<sup>( )</sup>は対前期比増減率

## 3.経営成績及び財政状態

## (1)経営成績

#### 当期の概況

当連結会計年度のわが国経済は、米国経済の減速と IT 関連業界低迷の影響による輸出の落ち込みや在庫調整による 生産及び設備投資の減少に加え、個人消費も低調に推移する等、厳しい状況が続きました。米国経済は、減速の続く中 で同時多発テロの影響もあり後退に拍車がかかりましたが、期末にかけて改善の兆しが見えてまいりました。一方、欧 州、アジアの経済は米国経済の後退と IT 関連の需要低迷の影響から、生産、輸出が減少するなど、厳しい状況で推移 いたしました。

当社製品の主力市場であります情報通信機器関連市場は、以上の様な世界経済が同時不況の様相を呈する中で需要が低迷し、厳しい状況のまま推移いたしました。

当社はかかる経営環境下で、販売、生産活動の一層の効率改善、品質の向上及び高付加価値製品の開発に努めましたが、売上高は 279,344 百万円と前期に家具事業を売却した事もあり前連結会計年度と比べ 7,701 百万円 ( 2.7%)減少いたしました。

また営業利益は21,972百万円、経常利益は15,995百万円とそれぞれ前連結会計年度と比べ11,005百万円 33.4% 入8,731百万円 35.3%)減少いたしました。当期純利益につきましては税効果会計による法人税等調整額に2,711百万円を計上したこと等により5,298百万円と前連結会計年度と比べ9,527百万円 64.3%)の減少となりました。

### (a) 事業の種類別セグメント業績は次のとおりであります。

#### 機械加工品事業

機械加工品は当社の主力製品であるボールベアリングの他に、主として航空機に使用されるロッドエンドベアリング、ハードディスク駆動装置(HDD)に使用されるピボットアッセンブリ 等のメカニカルパーツ、自動車及び航空機用のネジ、防衛関連製品が含まれております。ボールベアリングは、一部の家電業界向けと自動車業界向けは堅調でありましたが、情報通信機器関連業界向けは低迷し、全体では低調に推移いたしました。

また、ロッドエンドベアリングは同時多発テロ以降、主力市場である航空機業界よりの需要が減少し厳しい状況となりましたが、売上は期前半は順調に推移し、後半は受注残高の消化により全体では堅調でありました。この結果、売上高は122,025百万円、営業利益は22,135百万円と前連結会計年度と比べ、それぞれ2,436百万円( 2.0%)、1,771百万円( 7.4%)の減少に止まりました。

## 電子機器事業

電子機器事業はスピンドルモーター、ファンモーター、ステッピングモーター等の各種精密小型モーター、キーボード、スピーカー、フロッピーディスク駆動装置(FDD)、スイッチング電源、及び計測機器が主な製品であります。

主要客先であります情報通信機器関連市場からの需要が低迷し、価格競争は一層厳しさを増してまいりました。このような中で、ファンモーター、ステッピングモーター、及びフロッピーディスク駆動装置 (FDD)等の販売は低迷いたしましたが、HDD用スピンドルモーターは好調に売上を伸ばし、キーボードも堅調に推移いたしました。この結果、売上高は156,303百万円、営業損失は162百万円と前連結会計年度と比べ、それぞれ4,393百万円(2.9%)の増加、8,421百万円の減少となりました。

#### 流通販売事業ほか

流通販売事業は主として欧州における家具の買付と日本への輸出であります。前会計年度の平成 13 年 2 月 23 日をもって家具輸入販売子会社は売却して家具事業から撤退いたしましたが、売却先との契約にもとづき、本年 2 月末まで欧州における買付業務を継続いたしました。この結果、売上高は 1,016 百万円、営業損失 0.4 百万円と前連結会計年度と比べ、それぞれ 9,658 百万円(90.5%)、812 百万円の減少となりました。

#### (b) 所在地別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 日本地域

日本地域は多くの顧客が厳しいデフレ圧力に対応するため、生産品目を海外の子会社に移転するなどの影響に加え、 情報通信機器関連市場の需要低迷もあって、売上高は83,704百万円、営業利益は767百万円と前連結会計年度と比べ、 それぞれ27,939百万円(25.0%)、11,039百万円(93.5%)の減少となりました。

#### アジア地域

アジア地域は日本、欧米のパソコンや家電製品メーカーの生産拠点として重要な地域であります。日本、欧米の情報通信機器関連市場の需要低迷の影響を受けましたが、日本の顧客による生産品目の当地域移転の影響もあり、販売は堅調に推移いたしました。この結果、売上高は95,883 百万円、営業利益は17,386 百万円と前連結会計年度と比べ、それぞれ13,446 百万円(16.3%)、24 百万円(0.1%)の増加となりました。

## 北米・南米地域

北米・南米地域は米国経済の急激な減速によりファンモーター等の一部電子機器の販売が低迷いたしましたが、機械加工品、キーボード、及びスピーカー等は堅調に推移いたしました。また、9月の同時多発テロにより航空機関連の受注は減少しましたが、受注残高の消化により航空機向けべアリングの売上は増加しました。その結果、売上高は63,569百万円、営業利益は1,968百万円と前連結会計年度と比べそれぞれ5,377百万円(9.2%)、641百万円(48.3%)の増加となりました。

#### 欧州地域

欧州地域は経済の減速傾向が強まる中で、ボールベアリング、及びロッドエンドベアリングなどが堅調に推移い

たしました。売上高は 36,186 百万円、営業利益は 1,850 百万円と前連結会計年度と比べ、それぞれ 1,413 百万円 (4.1%)の増加、632 百万円 (25.5%)の減少となりました。

#### 次期の見通し

次期連結会計年度につきましては、わが国経済はIT関連の在庫調整が一巡し、輸出環境は好転するものの、引き続き雇用・所得環境の悪化や個人消費の低迷が見込まれ、景気の停滞は暫く続くものと予想されます。

一方、海外景気は IT 関連業界の在庫調整がほぼ一巡し、米国・東アジアを中心に改善の兆しが見えており、緩やかな回復傾向をたどるものと思われます。

(a) 事業の種類別セグメントの通期の見通しを示すと、次のとおりであります。

#### 機械加工品事業

ロッドエンドベアリングの主要顧客の一つである航空機業界は、同時多発テロの影響から需要が低迷しており当面厳しい状況が続くものと予想しております。一方、主力製品であるボールベアリング等については情報通信機器関連市場の需要低迷が底を打った感があり、需要は緩やかに回復するものと思われます。ボールベアリングを始め関連主要製品の更なるコスト削減、品質の向上、販売等の一層の効率改善に努め、業績の向上をはかります。

## 電子機器事業

電子機器事業の主要顧客であります情報通信機器関連業界の需要低迷が続いておりましたが、在庫調整も終わり徐々に需要は回復するものと予想されます。好調なHDD用スピンドルモーターの一層の拡販と、その他主要製品についてもコスト削減をはかり、高付加価値製品や低価格対応製品の開発及び市場投入を進め業績の改善に努めます。

(b) 所在地別セグメントの通期の見通しを示すと、次のとおりであります。

#### 日本地域

顧客企業の多くが需要低迷と価格競争の激化を背景に、国内工場からアジア地域への生産移転を一層進めることが予想され、販売面ではより厳しい状況が続くものと思われますが、製造から販売に至るまでの経営管理体制の効率化を進め、各地域の営業、製造、技術のより緊密な協力体制を整備し、業績の向上をはかります。

#### アジア地域

当社の主力生産拠点があり、且つ、現在では最大規模の市場がある地域でありますので、この利点を生かし主要顧客の欧米、日本からの生産移管に迅速に対応し業績の向上をはかります。

#### 北米• 南米地域

主要顧客の一つである航空機業界からの需要は、米国における同時多発テロによる航空旅客の減少もあり、今後も暫くは厳しい状況が続くと予想されます。

# 欧州地域

欧州地域に設置した開発部門による市場ニーズの迅速な取り込みを進め、ベアリングを始め主要製品の拡販をはかります。

#### (2) 財政状態

# 当期の状況

当社グループは、「財務体質の強化」を主要な経営方針とし、総資産の圧縮、設備投資の抑制及び負債の削減などを進めてまいりました。当期における現金及び現金同等物の残高は13,952百万円と前期末と比べ2,022百万円(16.9%)の増加となりました。

当期の各活動におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

業績の向上を強力に進めましたが、営業活動によるキャッシュ・フローは 34,017 百万円の収入と前連結会計年度に比べ 4,314 百万円 (11.3%) の減少となりました。

設備投資の支払いによる 26,245 百万円の支出等の結果、投資活動によるキャッシュ・フローは 24,346 百万円の支出と前連結会計年度に比べ 8,752 百万円 (26.4%) の支出の減少となりました。

また、短期借入金及び長期借入金の合計 5,839 百万円の返済等により、財務活動によるキャッシュ・フローは 8,317 百万円の支出となり前連結会計年度に比べ 8,820 百万円 (51.5%) の支出の減少となりました。

# 4.連結財務諸表等

(1)連 結 貸 借 対 照 表

(単位:百万円)

期別	当期末(14・3	• 31)	前期末(13・3	• 31)	比較増	<u>교・ロ/ハコ)</u> 減
科目	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	率
(資 産 の 部)		%		%		%
流動資産	131,548	37.6	137,106	3 9 . 5	5,557	4 . 1
現 金 及 び 預 金	13,952		11,930		2,022	
受取手形及び売掛金	51,281		55,277		3,995	
た な 卸 資 産	49,887		52,764		2,876	
繰延税金資産	6,521		6,271		2 5 0	
そ の 他	10,406		11,598		1,191	
貸倒引当金	5 0 1		7 3 4		2 3 3	
固定資産	218,471	62.4	209,714	60.4	8,757	4 . 1
有 形 固 定 資 産	183,437		168,732		14,704	
建物及び構築物	102,510		90,196		12,314	
機械装置及び運搬具	207,760		190,639		17,121	
工具器具及び備品	49,725		46,918		2,807	
土 地	17,410		16,550		8 6 0	
建設仮勘定	1,351		3,726		2,375	
減 価 償 却 累 計 額	195,321		179,298		16,022	
無 形 固 定 資 産	15,504		16,225		7 2 0	
連結調整勘定	14,594		15,344		7 4 9	
そ の 他	909		8 8 0		2 9	
投資その他の資産	19,528		24,756		5,227	
投 資 有 価 証 券	5,730		8,877		3,146	
長 期 貸 付 金	2 6 8		2 5 1		1 6	
繰延税金資産	11,143		13,388		2,245	
そ の 他	2,609		2,558		5 0	
貸倒引当金	2 2 3		3 1 9		9 6	
繰 延 資 産	1 7	0.0	1 4 4	0.1	1 2 7	87.8
資 産 合 計	350,037	100.0	346,965	100.0	3,072	0.9

(注) 自己株式の数

当<u>期</u>末 8,574株 <u>前期末</u> 591株

(単位:百万円)

期別	当期末(14・3	. 31)	前期末(13・3	• 3 1)	比較増	<u>位:日万円)</u> 減
科目	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
(負債の部)		%		%		%
流動負債	156,908	44.8	127,290	36.7	29,617	23.3
支払手形及び買掛金	26,115		29,170		3,054	
短 期 借 入 金	61,618		62,723		1,105	
長期借入金(1年以内返済)	28,019		3,806		24,212	
転換社債(1年以内償還)	13,823		-		13,823	
未 払 法 人 税 等	4,162		3,984		177	
賞与引当金	3,524		3,501		2 3	
車輪事業整理損引当金	-		2,762		2,762	
そ の 他	19,645		21,341		1,696	
固定負債	80,301	23.0	118,978	3 4 . 3	38,677	3 2 . 5
社	35,000		35,000		-	
転 換 社 債	27,080		40,903		13,823	
新株引受権付社債	4,000		4,000		-	
長期借入金	13,132		38,726		25,593	
退職給付引当金	208		2 3 2		2 3	
そ の 他	8 8 0		1 1 6		7 6 3	
負 債 合 計	237,209	67.8	246,269	7 1 . 0	9,059	3.7
(少数株主持分)						
少数株主持分	9 5	0.0	1 2 2	0.0	2 6	21.6
(資本の部)						
資 本 金	68,258	19.5	68,258	19.7	-	
資 本 準 備 金	94,756	27.1	94,756	27.3	-	
	163,015	46.6	163,015	47.0	1	
連結剰余金	4,774	1.3	3,303	1.0	1,470	44.5
その他有価証券評価差額金	1,718	0.5	9 5 2	0.3	7 6 5	80.3
為替換算調整勘定	53,333	15.2	64,791	18.7	11,457	17.7
	112,738	3 2 . 2	100,574	29.0	12,163	1 2 . 1
自 己 株 式	6	0.0	0	0.0	5	
資 本 合 計	112,731	3 2 . 2	100,573	29.0	12,157	1 2 . 1
負債、少数株主持分 及 び 資 本 合 計	350,037	100.0	3 4 6 , 9 6 5	1 0 0 . 0	3,072	0.9

(2) 連結損益及び剰余金結合計算書 (単位:百万円)

(2) 連結損益及び剰余金級	告合計算書			(単位	:百万円)
期別	当	期	前期		
	「自 13・ 4	. 1)	「自 12・ 4・ 1	比較増	減
		• 3 1	至 13・ 3・31		
科目	金額	百分比%	金額百分	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	率%
売 上 高	279,344	100.0	287,045 100		2.7
一	206,060	73.8		3,132	1.5
売 上 総 利 益	73,283	26.2		9.3 10,834	1 2 . 8
販売費及び一般管理費	5 1, 3 1 1	18.3		7.8 171	0.3
営業利益	21,972	7.9		1.5 11,005	3 3 . 4
営業外収益	1,801	0.6		0.6 131	7.9
日	5 8 6	0.0	3 5 9	2 2 6	, , ,
受取配当金	4 3		8 5	4 1	
持分法による投資利益	_		4	4	
そ の 他	1,171		1,220	4 9	
営 業 外 費 用	7,778	2.8		3.5 2,142	21.6
支 払 利 息	5,673		7,553	1,879	
為 替 差 損	8 2 7		7 3 1	9 5	
持分法による投資損失	2 1		-	2 1	
そ の 他	1,256		1,636	3 7 9	
経 常 利 益	15,995	5.7		3.6 8,731	35.3
特 別 利 益	1,727	0.6	6,403	2.2 4,676	73.0
債 務 免 除 益	7 1 4		-	7 1 4	
固定資産売却益	2 4 7		1 0 5	1 4 1	
関係会社株式売却益	-		5,215	5,215	
貸倒引当金戻入額	2 6 9		1,081	8 1 2	
車輪事業整理損引当金戻入額	4 9 6		-	4 9 6	
特別損失	4,773	1.7		3,968	45.4
たな卸資産廃棄損	1,125		1,846	7 2 0	
固定資産売却損	2 2 5		1 6 4	6 1	
固定資産除却損	3 8 6		1 7 6	2 1 0	
投資有価証券売却損	6		-	6	
車輪事業整理損	-		2,762	2,762	
投資有価証券評価損	1,466		-	1,466	
関係会社事業整理損	9 3 7		1,943	1,006	
特約店契約解消による支払解約金	-		1,200	1,200	
役員退職慰労金	-		5	5	
退職給付費用	6 2 6		6 4 4	1 7	
税金等調整前当期純利益	12,948	4 . 6	2 2 , 3 8 7	7.8 9,438	42.2
\_   T\			4 4 5 5		
法人税、住民税及び事業税	4,918		4,160	7 5 8	
法人税等調整額	2,711	2 -	3,296	5 8 5	2 2
法人税等合計	7,629	2.7		2.6 173	2.3
少数株主利益	2 0	0.0	104	0.0 84	80.5
当期純利益	5,298	1.9	14,826	5.2 9,527	64.3
連結剰余金期首残高	2,533		-	2,533	
連結剰余金期首残高	3,303		-	3,303	
海外子会社過年度税効果調整額	7 7 0		0 ( 1 1	770	
欠損金期首残高   連	- 4.2		8,641	8,641	
│ 連 結 剰 余 金 増 加 高 ■ 連結子会社の減少による連結剰余金増加高	4 3		3 5 3 5	8	
理論す芸社の例グによる理論刺示並増加局   連結剰余金減少高				1 8 4	
連結	3,100		2,916	2 4 0	
理論す芸性の例グによる理論剰赤玉例グ高	2 4 0 2 , 7 9 4		2,794	2 4 0	
	2,794			5 5	
			1 2 2	1,470	
連結剰余金期末残高	4,774		3,303	1,4/0	

(3)連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

(3)連結キャッシュ・フロー計算書			(単位:百万円)
期別	当 期 [自13.4.1] 至14.3.31	前期 (自12.4.1) 至13.3.31	比較増減
科目	金額	金額	
営業活動によるキャッシュ・フロー 税金等調整前当期純利益 減価償却費 連結調整勘定償却額 持分法による投資損益	1 2, 9 4 8 2 4, 3 8 5 1, 1 9 2 2 1	2 2 , 3 8 7 2 2 , 1 4 9 1 , 5 3 3 4	9,438 2,235 341 25
受取利息及び受取配当金 支払利息 債務免除益 有形固定資産売却益(または、売却損) 有形固定資産除却損	6 3 0 5 , 6 7 3 7 1 4 2 1 3 8 6	4 4 4 7 , 5 5 3 - 5 8 1 7 6	1 8 5 1 , 8 7 9 7 1 4 8 0 2 1 0
関係会社株式売却益 車輪事業整理損 関係会社事業整理損 投資有価証券売却損 投資有価証券評価損	- 9 3 7 6 1 , 4 6 6	5,215 2,762 1,943 -	5,215 2,762 1,006 6 1,466
特約店契約解消による支払解約金 売上債権の減少額 たな卸資産の減少額(または、増加額) 仕入債務の減少額	5,691 5,711 4,660	1,200 1,941 3,660 4,808	1,200 3,750 9,372 147
貸倒引当金の減少額 賞与引当金の増加額 車輪事業整理損引当金の減少額 退職給付引当金の減少額 役員賞与の支払額	3 8 3 5 2 , 7 6 2 3 2 1 2 2	1,100 220 - 13 -	7 1 7 2 1 5 2 , 7 6 2 1 9 1 2 2
その他の減少額(または、増加額)	6,094	3,617 50,297	9,712 7,292
利息及び配当金の受取額 利息の支払額 特約店契約解消による解約金の支払額 法人税等の支払額	5 9 8 4 , 5 9 6 - 4 , 9 8 8	4 4 4 7 , 5 8 7 1 , 2 0 0 3 , 6 2 1	154 2,990 1,200 1,366
営業活動によるキャッシュ・フロー	3 4, 0 1 7	38,332	4,314
投資活動によるキャッシュ・フロー 有形固定資産の取得による支出 有形固定資産の売却による収入 投資有価証券の取得による支出 投資有価証券の売却による収入	2 6 , 2 4 5 1 , 4 0 9 1 2 8 5	39,876 631 31	13,630 777 29 285
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 連結の範囲の変更を伴う子会社の売却による収入 貸付による支出 貸付金の回収による収入 その他の減少額(または、増加額)	5 3 0 5 4 0 5 2 1 2 7 8	5,215 727 1,719 120	5 3 5 , 2 1 5 1 8 6 1 , 1 9 8 3 9 9
営業の譲受による収入 投資活動によるキャッシュ・フロー	2 4 , 3 4 6	9 0 3 3 , 0 9 9	9 0 8 , 7 5 2
財務活動によるキャッシュ・フロー 短期借入金の減少額 長期借入れによる収入 長期借入金の返済による支出 新株引受権付社債の発行による収入 自己株式の取得による支出	3,354 513 2,485 -	6,432 119 11,876 4,000	3,078 393 9,391 4,000
自己株式の取得による支出 配当金の支払額 少数株主への配当金の支払額 その他の減少額 財務活動によるキャッシュ・フロー	2,794 31 163 8,317	2,794 27 128 17,138	0 4 3 5 8 , 8 2 0
現金及び現金同等物に係る換算差額	6 6 9	5 9 6	1,265
現金及び現金同等物の増加額(または、減少額) 現金及び現金同等物の期首残高 現金及び現金同等物の期末残高	2,022 11,930 13,952	1 2,5 0 2 2 4,4 3 2 1 1,9 3 0	1 4,5 2 4 1 2,5 0 2 2,0 2 2

#### (4) 連結財務諸表作成のための基本となる事項

連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 48社 主要会社名 NMB SINGAPORE LTD., NMB (USA) INC., NMB THAI LTD.
MINEBEA ELECTRONICS (THAILAND) CO.,LTD.

関連会社数 2 社 うち持分法適用会社数及び主要会社名 2 社 (株)湘南精機,関東精工(株)

連結範囲及び持分法の適用の異動状況

(イ)連結子会社	新規	株式の追加取得による	(1社)	(株)エヌエムビー・タイメイ
		a)会社合併による	(2社)	上海ミネベア精密電子有限公司
				上海ミネベア機械有限公司
	除	b)会社清算による	(5社)	PAPST-MINEBEA-DISC-MOTOR (THAILAND) LTD. ミネベア ジオテクノロジー(株)
	外			ACTUS (EUROPE) GmbH. MINEBEA THAI AGROINDUSTRY CO,LTD. MINEBEA CP,INC.
		c)株式売却による	(1社)	Minebea Electronics Mexico S.A.de C.V.
(口)持分法適用会社	新 規	ありません		
	除 外	連結子会社への変更による	(1社)	(株)エヌエムビー・タイメイ

# 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、当連結財務諸表の作成にあたり、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

## 会計処理基準に関する事項

# (a) 重要な資産の評価基準及び評価方法

## 1.たな卸資産

当社及び国内連結子会社については、主として移動平均法による原価法を採用しております。 在外連結子会社については、主として先入先出法又は移動平均法による低価法を採用しております。

# 2. その他有価証券

・時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。また、評価差額は、全部資本直入法により処理し、 売却原価は移動平均法により算定しております。

・時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (b) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

#### 1.有形固定資産

当社及び国内連結子会社については、定率法を採用しております。なお、少額の減価償却資産(取得価額が10万円以上20万円未満の減価償却資産)については、事業年度毎に一括して3年間で均等償却しております。 在外連結子会社については、主として定額法を採用しております。

### 2.無形固定資産

当社及び国内連結子会社については、定額法を採用しております。なお、ソフトウエア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。 在外連結子会社については、主として定額法を採用しております。

## (c) 重要な引当金の計上基準

#### 1. 退職給付引当金

当社及び国内連結子会社については、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。 なお、会計基準変更時差異(3,134百万円)については、5年による按分額を「退職給付費用」として特別損失に計上しております。

数理計算上の差異については、一定の年数(5年~15年)による定額法により、発生した連結会計年度の翌期から費用処理することとしております。

在外連結子会社については、従業員の退職金の支給に備えるため、期末要支給額を計上しております。

#### 2.貸倒引当金

当社及び国内連結子会社では、債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、 貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

在外連結子会社については、債権の貸倒による損失に備えるため、個々の債権の回収可能性を勘案して回収不 能見込額を計上しております。

#### 3. 賞与引当金

~ 当社及び国内連結子会社については、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

在外連結子会社については、発生基準に基づき計上しております。

(d) 連結財務諸表の作成の基礎となった連結会社の財務諸表の作成に当たって採用した重要な外貨建資産及び負債の本 邦通貨への換算基準

当社及び国内連結子会社については、連結決算時の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

在外連結子会社については、資産及び負債は、連結決算時の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は少数株主持分及び資本の部における為替換算調整勘定に含めております。

## (e) 重要なリース取引の処理方法

当社及び国内連結子会社はリース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、在外連結子会社については主として当社と同じ方法によります。

## (f) 重要なヘッジ会計の方法

為替予約等が付されている外貨建金銭債権債務については、振当処理を行っております。

なお、為替予約取引は当社の資金部の指導のもとに輸出入取引等に係る為替相場変動によるリスクをヘッジする目的で行っております。

また、為替予約の締結時に、リスク管理方針に従って、外貨建による同一金額で同一期日の為替予約をそれぞれ振当てているため、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されており、その判定をもって有効性の判定に代えております。

## (g) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

# (h) 期末日満期手形処理

連結会計年度末日満期手形は、手形交換日をもって決済処理をしております。

従って、当連結会計年度末日が金融機関の休日のため、期末日満期手形が次の科目に含まれております。

受取手形及び売掛金6 5 百万円支払手形及び買掛金1,13 4 百万円流動負債のその他9 3 百万円

(設備関係支払手形)

# 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項

連結子会社の資産及び負債の評価方法は、部分時価評価法によっております。

## 連結調整勘定の償却に関する事項

連結調整勘定は、連結会社の所在地国の会計慣行に従って5年から40年の間で均等償却しております。

## 利益処分項目等の取扱いに関する事項

連結損益及び剰余金結合計算書は、連結会社の利益処分について、連結財務諸表規則第8条ただし書の書式(繰上方式)によっております。

### 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

## (5) 注記事項

セグメント情報

(a) 事業の種類別セグメント情報

当 期(自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日) (単位:百万円)									
			当	期					
	機械加工品	電子機器	流通販売ほか	計	消 去 又は全社	連結			
売上高及び営業利益									
売 上 高									
(1) 外 部 顧 客 に 対する売上高	122,025	156,303	1,016	279,344	-	279,344			
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,336	-	-	8,336	8,336	-			
計	130,361	156,303	1,016	287,679	8,336	279,344			
営 業 費 用	108,225	156,466	1,016	265,707	8,336	257,371			
営 業 利 益	22,135	162	0	21,972	-	21,972			
資産、減価償却費 及び資本的支出									
資産	205,919	231,806	745	438,472	88,434	350,037			
減価償却費	9,489	14,891	5	24,385	-	24,385			
資本的支出	7,963	18,485	5	26,453	-	26,453			

(注)1.事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 . 各区分の主な製品

機械加工品……ベアリング、ピボット アッセンブリー、テープガイド、ファスナー、航空機用機械加工部品、車輪、 防衛関連機器等

電子機器………各種精密小型モーター等、キーボード、スピーカー、トランスフォーマー、FDDサブアッセンブリー、 スイッチング電源、インダクター、ハイブリッドIC、フロントライト・アッセンブリー、ひずみゲ ージ、ロードセル等

流通販売ほか…家具及びインテリア用品等

前期(自平成12年4月1日至平成13年3月31日) (単位:百万円)											
			前	期							
	機械加工品	電子機器	流通販売ほか	計	消 去 又は全社	連結					
売上高及び営業利益											
売 上 高											
(1)外部顧客に 対する売上高	124,461	151,910	10,674	287,045	-	287,045					
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,045	-	-	9,045	9,045	-					
計	133,506	151,910	10,674	296,090	9,045	287,045					
営 業 費 用	109,600	143,651	9,862	263,113	9,045	254,068					
営 業 利 益	23,906	8,259	812	32,977	-	32,977					
資産、減価償却費 及び資本的支出											
資產	200,457	255,789	3,711	459,957	112,992	346,965					
減価償却費	10,842	11,240	68	22,150	-	22,150					
資本的支出	19,464	21,010	185	40,659	-	40,659					

(注)1.事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 . 各区分の主な製品

機械加工品……ベアリング、ピボット アッセンブリー、テープガイド、ファスナー、航空機用機械加工部品、車輪、 防衛関連機器等

電子機器………各種精密小型モーター等、キーボード、スピーカー、トランスフォーマー、FDDサブアッセンブリー、 スイッチング電源、インダクター、ハイブリッドIC、フロントライト・アッセンブリー、ひずみゲ ージ、ロードセル等

流通販売ほか…家具及びインテリア用品等

# (b) 所在地別セグメント情報

# 当期(自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日)

(単位:百万円)

	当 期				期		
	日本	アジア	北米・南米	欧州	計	消 去 又は全社	連結
売上高及び営業利益							
売 上 高							
(1) 外 部 顧 客 に 対する売上高	83,704	95,883	63,569	36,186	279,344	-	279,344
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	92,865	107,444	3,508	4,548	208,366	208,366	-
計	176,569	203,327	67,077	40,735	487,710	208,366	279,344
営 業 費 用	175,802	185,941	65,109	38,885	465,738	208,366	257,371
営 業 利 益	767	17,386	1,968	1,850	21,972	-	21,972
資産	195,304	201,541	38,088	25,194	460,129	110,091	350,037

(注)1. 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

国又は地域の区分方法・・・・地理的近接度によっております。

各区分に属する主な国又は地域

ア ジ ア:タイ、シンガポール、中国、台湾、韓国等

北米・南米:米国、メキシコ

欧州:イギリス、ドイツ、フランス、イタリア

## 前期(自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日)

(単位:百万円)

			前		期		
	日本	アジア	北米・南米	欧州	計	消 去 又は全社	連結
売上高及び営業利益							
売 上 高							
(1)外部顧客に 対する売上高	111,643	82,437	58,192	34,773	287,045	-	287,045
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	95,003	108,712	1,597	3,450	208,762	208,762	-
計	206,646	191,149	59,789	38,223	495,807	208,762	287,045
営 業 費 用	194,840	173,787	58,462	35,741	462,830	208,762	254,068
営 業 利 益	11,806	17,362	1,327	2,482	32,977	-	32,977
資 産	212,827	183,118	38,821	25,191	459,957	112,992	346,965

(注)1. 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

国又は地域の区分方法・・・・・地理的近接度によっております。

各区分に属する主な国又は地域

ア ジ ア:タイ、シンガポール、中国、台湾、韓国等

北米・南米:米国、カナダ、メキシコ

欧州:イギリス、ドイツ、フランス、イタリア

## (c) 海 外 売 上 高

当期(自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日) (単位:百万円)

		当	期	
	アジア	北米・南米	欧州	合 計
海外売上高	96,758	60,733	38,832	196,323
連結売上高		279,344		
連結売上高に占める 海外売上高の割合	34.6%	21.7%	13.9%	70.3%

- (注) 1 . 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。
  - 2. 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

国又は地域の区分方法・・・・地理的近接度によっております。

各区分に属する主な国又は地域

ア ジ ア:タイ、シンガポール、中国、台湾、韓国等

北米・南米:米国、カナダ、メキシコ等

欧州: イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、オランダ等

前期(自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日) (単位:百万円)

		前	期	
	アジア	北米・南米	欧州	合 計
海外売上高	84,687	58,203	34,564	177,454
連結売上高		287,045		
連結売上高に占める 海外売上高の割合	29.5%	20.3%	12.0%	61.8%

- (注) 1 . 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。
  - 2. 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

国又は地域の区分方法・・・・・地理的近接度によっております。

各区分に属する主な国又は地域

ア ジ ア:タイ、シンガポール、中国、台湾、韓国等

北米・南米:米国、カナダ、メキシコ等

欧州: イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、オランダ等

# リース取引関係

	<u>当</u>	į <u>Į</u>	<u>月</u>	<u>前</u>	j <u>į</u>	<u>月</u>
(a)リース物件の取得価額相当 額、減価償却累計額相当額 及び期末残高相当額	取得価額相 当額	減価償却累 計額相当額	期末残高相 当額	取得価額相 当額	減価償却累 計額相当額	期末残高相 当額
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	1,633	8 1 4	8 1 8	2,654	1,687	967
工具器具及び備品	3,707	2,006	1,700	3,831	1,999	1,832
合 計	5,340	2,821	2,519	6,485	3,686	2,799

なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、「支払利子 込み法」により算定しております。

# (b)未経過リース料期末残高相当額

1	年 以	内	1,1 0 6 百万円	1 , 2 9 5 百万円
1	年	超	1 , 4 1 2 百万円	1 , 5 0 4 百万円
	合	計	2,519百万円	2,799百万円

なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、「支払利子込み法」により算定しております。

# (c)支払リース料及び減価償却費相当額

支払リース料	1 , 4 5 3 百万円	1 , 5 5 6 百万円
減価償却相当額	1 , 4 5 3 百万円	1,556百万円

# (d)減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

# 関連当事者との取引

# 役員及び個人主要株主等

	当											
属性	会社等 の名称	住所	資本金 又は 出資金	事業の内 容又は職 業	議決権等 の所有(被 所有)割合	関係 役員の 兼任等	内 容 事業上 の関係	取引力		取引金額	科目	期末残高
役員及びその近親者	松岡 敦	-	-	当社取締役 (株)啓愛社 代表取締役 社長	(被所有) 直接 0 %	-	-	「(株)啓愛	社」を参照下	さい。		
役び近が権が権が	(株)啓愛社	東京都北区	百万円 1,905	鋼材及び製鋼 原料の販売等	(被所有) 直接 5 %	兼任 4人 出向 1人	当社が鋼 材等を購 入してい る	業	鋼 材 等の購入	百万円 1,423	支払手形 及び 買掛金等 3	550
半数を 所有しる 会社等								取引	建物の 賃貸料等		流動資産 その他 (未収入 金) 3	1
									機械装置等 の賃借料	699		

# (注) 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- 1.(株)啓愛社との取引は、いわゆる第三者のための取引であります。
- 2.鋼材等の購入価格、建物の賃貸料等、並びに機械装置等の賃借料については、市場価格を勘案し、交渉の上決定しております。
- 3.取引金額は、消費税等抜きによっておりますが、期末残高には消費税等が含まれております。

## 役員及び個人主要株主等

					 前			期					
属性	会社等 の名称	住所	資本金 又は 出資金	事業の内谷	議決権等 の所有(被 所有)割合	関係 役員の 兼任等	内 容 事業上 の関係		引 の 容	取引金額	科目	期末残高	
役員及 びその 近親者	貝沼 由久	-	-	当社専務 取締役 (株)啓愛社 代表取締役 専務	(被所有) 直接 0%	-	-	「(株)啓愛	社」を参照下	さい。			
役員及びその近親者	高橋 和子	-	-	-	(被所有) 直接 0%	-	-	営業取引以外の取引	株式の購入	百万円 360	未払金	百万円 360	
役員及 びその 近親者	松岡 敦	-	-	当社取締役 (株)啓愛社 代表取締役 社長	(被所有) 直接 0%	-	-	「(株)啓愛	社」を参照下	さい。			
役び近が権の 員で親議の を 数し	(株)啓愛社	東京都北区	百万円 1,905	精密機械部品、 鋼材及び製鋼 原料の販売等	(被所有) 直接 5.0%	兼任 4人 出向 1人	当社製品 及び仕入 製品の販 売特約店	営業	当 社 製 品 及び仕入 製品等の 販売	百万円 74,322	-	百万円 -	
所有し ている 会社等							当社が鋼 材等を購 入してい る	材等を購 入してい	取	鋼材等の 購入	5,206	支払手形 及び 買掛金等 5	1,136
								引	建物の 賃借料等	983	-	-	
								営業	山荘の 購入	4,550	-	-	
								取引以外の	特約店契 約解消に よる支払 解約金	1,200	-	-	
								取引	営業の譲受 7 ・譲受資産合計 ・譲受負債合計 ・譲受支払	31,096 30,843 252	- - -	- - -	

# (注) 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- 1.(株)啓愛社は、平成13年1月1日に(株)啓愛社エヌ・エム・ビーより商号変更されております。
- 2.(株)啓愛社との取引は、いわゆる第三者のための取引であります。
- 3.製品及び仕入製品の販売価格は、市場価格を勘案し、毎期交渉の上決定しております。
- 4.鋼材等の購入価格は、市場価格を勘案し、交渉の上決定しております。
- 5.取引金額は、消費税等抜きによっておりますが、期末残高には消費税等が含まれております。
- 6. 当社は、(株)啓愛社エヌ・エム・ビーとの、国内販売特約店契約を平成12年12月31日付けで解約しております。
- 7.営業の譲受については、販売特約店契約の方針に基づいて販売部門の営業を譲受したものであり、(株)啓愛社の算定した対価に基づき交渉の上、決定しております。

当 期 末		前 期 末	
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主	な原因別	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生	の主な原因別
の内訳	百万円	の内訳	百万円
(繰延税金資産)		(繰延税金資産)	
賞与引当金損金算入限度超過額	629	賞与引当金損金算入限度超過額	475
退職給付引当金損金算入限度超過額	28	退職給付引当金損金算入限度超過額	39
投資有価証券評価損	301	車輪事業整理損	1,105
関係会社事業整理損	146	関係会社事業整理損	1,726
貸倒引当金損金算入限度超過額	1,368	貸倒引当金損金算入限度超過額	1,310
未実現棚卸資産売却益	2,501	未実現棚卸資産売却益	2,074
繰越欠損金	11,236	繰越欠損金	11,984
その他有価証券評価差額金	1,145	その他有価証券評価差額金	635
その他	307	その他	311
繰延税金資産合計	17,664	繰延税金資産合計	19,659
(繰延税金負債)		(繰延税金負債)	
海外子会社減価償却認容額	1,380	海外子会社減価償却認容額	323
その他	122	その他	87
繰延税金負債合計	1,503	繰延税金負債合計	410
操延税金資産の純額 	<u>16,160</u>	繰延税金資産の純額	<u>19,249</u>
当連結会計年度の繰延税金資産の純額は、連続	は貸供対昭素の以	   当連結会計年度の繰延税金資産の純額	ナ 連結貸供対照素の
下の項目に含まれております。	19月21点次000	以下の項目に含まれております。	3、连和其旧对黑农()
TORGICE STUCED DE 9		S Posgarcas (Cooks)	
流動資産 - 繰延税金資産	6,521	流動資産 - 繰延税金資産	6,271
固定資産 - 繰延税金資産	11,143	固定資産 - 繰延税金資産	13,388
流動負債 - 繰延税金負債	1,397	流動負債 - 繰延税金負債	343
固定負債 - 繰延税金負債	105	固定負債 - 繰延税金負債	67
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人利		2. 法定実効税率と税効果会計適用後の	
の間に重要な差異があるときの、当該差異の 要な項目別の内訳	原囚となった土	の間に重要な差異があるときの、当該表 主要な項目別の内訳	<b>E</b>
国内の法定実効税率	40.0%	国内の法定実効税率	40.0%
(調整)	10.070	(調整)	.0.070
連結調整勘定当期償却額	2.8		2.3
海外連結子会社の税率差	26.8	海外連結子会社の税率差	17.4
連結子会社の当連結会計年度欠損金に対する評価性引当額	1.7	連結子会社の当連結会計年度欠損金に対する評価性引当額	7.1
受取配当金の消去に伴う影響額	43.1	その他	1.3
その他	1.9		
税効果会計適用後の法人税等の負担率	58.9	税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>33.3</u>
		•	

## 有 価 証 券 関 係

1. その他有価証券で時価のあるもの (単位:百万円)						
	当	期	末	前	期	末
種類	取得原価	連結貸借対照 表計上額	差額	取得原価	連結貸借対照 表計上額	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの						
株 式	2	3	1	1,041	1,262	2 2 1
連結貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの						
株 式	7,258	4,393	2,864	7,937	6,127	1,809
合 計	7,260	4,397	2,863	8,978	7,390	1,588

2.時価評価されていない主な有価詞	(単位:百万円)	
	当 期 末	前期末
種類	連結貸借対照表計上額	連結貸借対照表計上額
その他有価証券	1,333	1,487
合 計	1,333	1,487

(注)非上場株式(店頭売買株式を除く)

デリバティブ取引の契約額、時価及び評価損益

通貨関連 (単位:百万円)

								,	T . H/J/3/
		·	当 期	末			前 期	末	
区	種類	契 約	的額等	時 価	評価損益	契約	的額 等	時 価	評価損益
分			うち1年超				うち1年超		
	為替予約取引								
市場	売 建								
取引	米ドル					185		185	
市場取引以外の取引	日本円					250		250	
の取り	買建								
51	日本円					45		45	
合	計					480		480	

# (注)1.時価の算定方法

為替予約取引は、先物為替相場によっております。

- 2. 当連結会計年度においては、ヘッジ会計を適用しているものについては、開示の対象から除いております。
- 3.シンガポールにおいて、平成13年4月発生見込分について、期末日に為替予約をしております。

当期	前期
企業の採用する退職給付制度 従業員の退職金の支給に備えるため、適格退職年金制度 を全面的に採用しております。	企業の採用する退職給付制度 従業員の退職金の支給に備えるため、適格退職年金制度 を全面的に採用しております。
退職給付債務等の内容 (a) 退職給付債務及びその内訳 イ 退職給付債務 9,835 百万円 日 年金資産 6,883 ハ 未積立退職給付債務 2,952 (イ+ロ) こ 会計基準変更時差異の 1,880 未処理額 ホ 未認識数理計算上の 1,211 差異 ハ 連結貸借対照表計上額 139 純額(ハ+ニ+ホ) ト 前払年金費用 294 チ 退職給付引当金(ハート) 155 (注) (注)貸借対照表上、過年度における適格退職年金制度 への移行による退職給与引当金超過額を含めて 「退職給付引当金」として表示しております。	退職給付債務等の内容 (a)退職給付債務及びその内訳 イ 退職給付債務 9,450 百万円 ロ 年金資産 6,468 ハ 未積立退職給付債務 2,982 ((+ロ)) こ 会計基準変更時差異の 2,507 未処理額 ホ 未認識数理計算上の 591 差異 ヘ 連結貸借対照表計上額 116 純額(ハ+ニ+ホ) ト 前払年金費用 225 チ 退職給付引当金(ヘ-ト) 109 (注) (注)貸借対照表上、過年度における適格退職年金制度 への移行による退職給与引当金超過額を含めて 「退職給付引当金」として表示しております。
(b)退職給付費用の内訳 イ 勤務費用 654百万円 ロ 利息費用 269 ハ 期待運用収益 190 こ 会計基準変更時差異の費 626 用処理額 ホ 数理計算上の差異の費用 120 処理額 へ 退職給付費用 1,479	(b)退職給付費用の内訳 イ 勤務費用 644百万円 ロ 利息費用 251 バ 期待運用収益 171 こ 会計基準変更時差異の費 644 用処理額 ホ 退職給付費用 1,368
退職給付債務等の計算の基礎 割引率 3.0% 期待運用収益率 3.0% 退職給付見込額の期間配分法 期間定額基準 数理計算上の差異の処理年数 5年~15年 (定額法により、翌期から費用処理することとして おります。) 会計基準変更時差異の処理年数 5年 (按分額を特別損失に計上しております。)	退職給付債務等の計算の基礎 割引率 3.0% 期待運用収益率 3.0% 期待運用収益率 3.0% 退職給付見込額の期間配分法 期間定額基準 数理計算上の差異の処理年数 5年~15年 (定額法により、翌期から費用処理することとして おります。) 会計基準変更時差異の処理年数 5年 (按分額を特別損失に計上しております。)

# 5. 生産、受注及び販売の状況

(1) 生產実績

(単位:百万円)

事	業の種類	見別セグメ	ント	当	期	前	期
機	械	加工	品	1 2 4	, 6 0 4	127,	5 3 2
電	子	機	器	1 5 4	, 4 9 0	1 4 7 , 9	5 5 3
	合	計		2 7 9	, 0 9 4	275,0	0 8 5

(注) 金額は、販売価格(消費税抜き)によっております。

(2) 受注実績

(単位:百万円)

事業の種類別セグメント	当	期	前	期
ず来の性無別ピッパント	受注高	受注残高	受注高	受注残高
機 械 加 工 品	112,414	34,288	133,718	43,899
電子機器	158,253	23,483	150,877	21,533
流 通 販 売 ほ か	8 2 6		9,854	1 9 0
合 計	271,493	57,771	294,449	65,622

(注) 金額は、販売価格(消費税抜き)によっております。

(3) 販売実績

(単位:百万円)

(-) 101 00 00		( 1 = 1 = 10000)
事業の種類別セグメント	当期	前期
機 械 加 工 品	1 2 2 , 0 2 5	1 2 4 , 4 6 1
電子機器	156,303	151,910
流 通 販 売 ほ か	1,016	10,674
合 計	279,344	287,045

(注)1.金額は、販売価格(消費税抜き)によっております。

2.主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

(単位:百万円)

		( 1 1 7 7 7		
相手先	当	期	前	期
相手先	販 売 高	割 合 (%)	販 売 高	割 合 (%)
(株) 啓愛社エヌ・エム・ビー			74,314	25.9

(注) 当社は、同社との日本国内における販売特約店契約を平成12年12月31日付けで解約し、平成13年1月1日 より日本の顧客に直接販売をしております。